

地域における日本語教育の「特定のニーズ」について考える
～特定のニーズに対応した日本語教育実践とその普及～

オンラインによる 対話を通じた基礎的な日本語教育

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA)

日本語教育コーディネーター 萬浪 絵理



団体概要

NPO法人 国際活動市民中心 (CINGA) Citizen's Network for Global Activities

特徴：外国人の支援を行う専門家のネットワーク組織

支援者を支える中間支援・コーディネート組織

弁護士、行政書士、心の相談、労働相談、社会福祉士、社会保険労務士、通訳者、日本語教師、メディア関係者、協会職員などが専門性を活かして市民活動を行っている。2004年設立、会員数47名。

- ・東京都外国人新型コロナ生活相談センター (TOCOS) 協力実施 (2020年度)
- ・東京出入国在留管理局主管 外国人総合相談支援センター／東京開業ワンストップセンター受託 (2012～現在)
- ・外国人技能実習機構母国語相談センター受託 (2018年度～現在)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修カリキュラム開発事業【日本語学習支援者に対する研修】 (2018、2019年度)
- ・無料多言語専門家相談事業 (毎週2回の専門家相談会実施) 自主事業
- ・少数言語通訳者の派遣コーディネート事業 (2018、2019年東京都助成対象事業)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業【日本語学習支援者に対する研修】 (2020～2022年度)
- ・文化庁 「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業 (2021～2023年度)

特定のニーズ

- さまざまな理由で対面の教室に通いにくい「生活者」が存在する。
そのうち、地域の教室において特に対応が少ない／対応が難しい対象：

・ 全くまたはほとんど日本語がわからない層

→ R3

・ 会話はできるものの読み書きを学びたい層

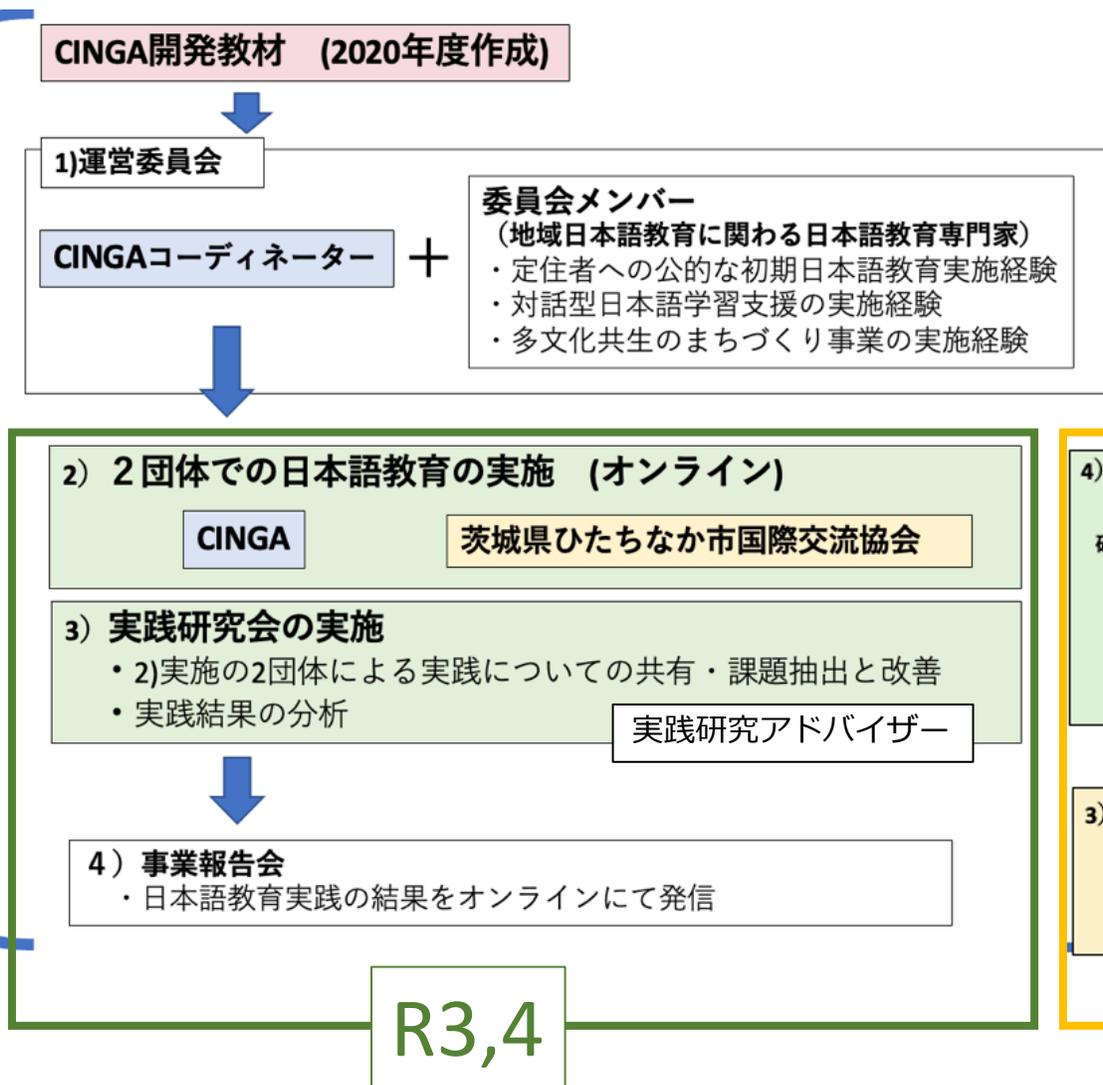
→ R4

事業目的

- 地理的・時間的事情等で日本語学習の機会が届きにくい生活者に対し、社会参加促進に向けて、対話と自律学習に重点を置いたA2レベルの日本語教育を届けること。また、人材育成と成果普及を通して、同様のニーズに対応する各地の日本語教育体制整備に資すること。

事業実施体制

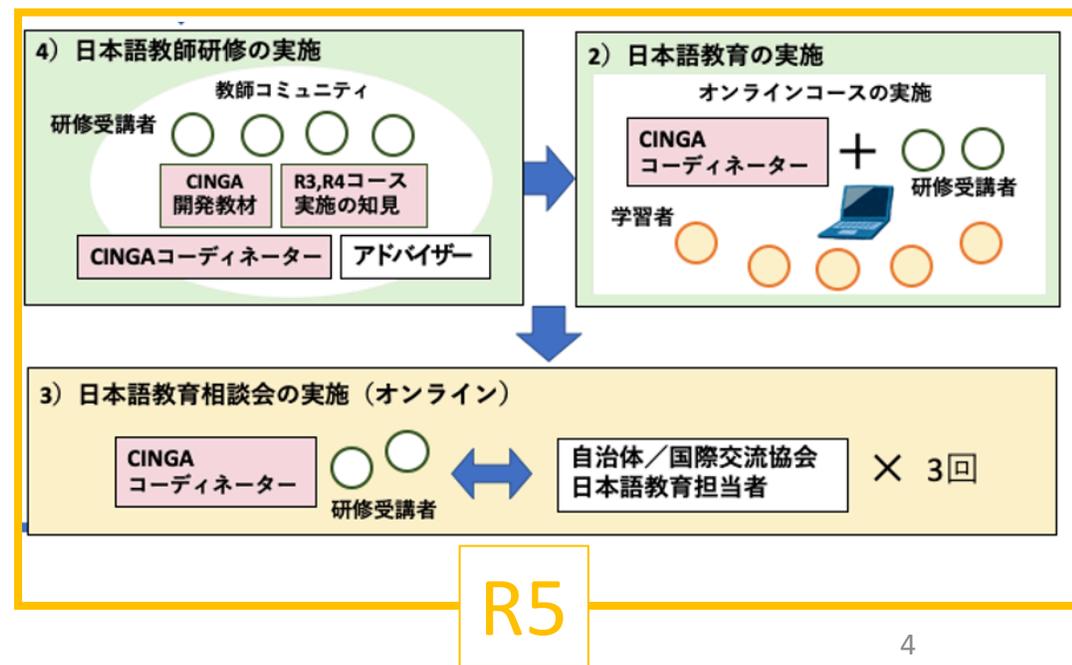
中核コーディネーター
 ・市民参加の日本語活動の場＋基礎日本語教育の視点
 ・日本語学習支援者研修カリキュラム開発の経験
 ・人とつながるための教材開発の経験



特徴：

R3,4は2地域において日本語教育の実施、および実践研究によるコース評価

R5は過去2カ年の知見を生かした日本語教師研修の実施



R3

CINGA

わたしをつたえるにほんご

にほんごオンラインコース CINGA JAPANESE ONLINE COURSE

【日程】 7月13日(火)～12月21日(火)、1月21日(金) 全46回
毎週火曜日・金曜日 19:00-21:00

2021		2022				
7月 July	8月 Aug.	9月 Sept.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.
火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.
	2					4 7
6 9	3 6	7 10	5 8	9 12	7 10	11 14
13 16	10 13	14 17	12 15	16 19	14 17	18 21
20 23	17 20	21 24	19 22	23 26	21 24	25 28
27 30	24 27	28	26 29	30	28 31	
	31					



【対象】 東京および近県に住んでいる人。はじめて日本語を勉強する人。
PCまたはタブレットで参加できる人。
日本にこれから長く住む人。周りの人と日本語でつながりたい人。

【場所】 オンライン

【6ヶ月間で学ぶこと】

このコースでは、ひらがな、カタカナから勉強をはじめます。
日本語の基礎的な文の作り方や、ことば・表現を学びます。
自分の考えや、意見・経験などを伝えられるようになります。

【費用】 受講料：¥3,000 + テキスト代：¥3,000

★本コースの受講経費は50,000円ですが、47,000円が委託事業によって賄われます。
そのため、3,000円で受講いただけます。

【締め切り】 6月23日

【定員】 10名 *できるだけいろいろな人が入るように選考します

【受講条件】

このコースは地域の日本語教育を研究するために作られたコースです。

①～③全て同意の上、お申し込みください。
多言語翻訳付きのコース説明動画をご覧ください。

- ① コースの期間は6ヶ月です。最後まで参加してください。
- ② 授業の様子(写真・ビデオ・成果物)をデータとして研究に使用します。
- ③ コースの途中で、数回のインタビューがあります。

説明動画リンク



問合せ・連絡先 mail cinganihongo21@gmail.com TEL 03-6261-6225

http://www.cinga.or.jp

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA) 担当：地域日本語チーム

*本事業は「令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業～地域日本語教育実践プログラム(C)」として、CINGAが文化庁より受託し実施するものです。



CINGA
コース
→

ひたちなか
コース
→

令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(C)



*この事業は令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(C)として、CINGAが文化庁より受託し実施するものです。
*実践場所のひとつとして、ひたちなか市国際交流協会の日本語支援プロジェクトが連携して行います。

わたしをつたえる にほんごクラス

説明会
7月8日(木)
10:00～
ふぁみりこらぼ

【日程】 2021年 7月30日(金)～12月24日(金) 全41回 毎週 火曜日・金曜日 10:00～12:00

7月 July		8月 Aug.		9月 Sept.		10月 Oct.		11月 Nov.		12月 Dec.	
火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.	火 Tue.	金 Fri.
	2										
6 9	3 6	7 10	5 8	9 12	7 10	11 14	9 12	13 16	11 14	15 18	13 16
13 16	10 13	14 17	12 15	16 19	14 17	18 21	16 19	19 22	17 20	20 23	18 21
20 23	17 20	21 24	19 22	23 26	21 24	25 28	23 26	27 30	25 28	29 31	27 30
27 30	24 27	28	26 29	30	28 31		28 31				
	31										

このチラシ内容を
多言語翻訳できます
(Translate)



【対象】 ひたちなか市内及び近隣に住んでいる人。日本にこれから長く住む人。周りの人と日本語でつながりたい人。
ひたちなか市国際交流協会の日本語入門講座を受講した人。ひらがな・カタカナの読み書きができる人。
オンラインになったとき、自宅からオンラインができる人。

【場所】 ふぁみりこらぼ(ひたちなか市子育て支援・多世代交流施設)

【このクラスで学ぶこと】

日本語の基礎的な文の作り方や、ことば・表現を学びます。
自分の考えや、意見・経験などを伝えられるようになります。

【費用】 コロナ対策費：¥3,000 + テキスト代：¥3,000

★本コースの受講経費は50,000円ですが、47,000円が委託事業によって賄われます。
そのため、3,000円で受講いただけます。

★このクラスは託児室を設けています。子どもを預けることができます。

託児のための費用は那珂湊、勝田、ひたちなか各ロータリークラブの支援を受けています。

【締め切り】 6月30日(水) 【定員】 10名 *できるだけいろいろな人が入るように選考します。

【受講条件】

このコースは地域の日本語教育を研究するために作られたコースです。

①～③全て同意の上、お申し込みください。

説明会に必ず参加してください。(7月8日(木) 10:00～ふぁみりこらぼ)

- ① コースの期間は6ヶ月です。最後まで参加してください。
- ② 授業の様子(写真・ビデオ・成果物)をデータとして研究に使用します。
- ③ コースの途中で、数回のインタビューがあります。

子どもと
いっしょに
来ることが
できます。



問合せ先

ひたちなか市国際交流協会 事務局
TEL/FAX:029-212-6855 MAIL:jfo@hitachinaka-ia.org
HP : http://www.hitachinaka-ia.org

日本語教育の内容

CINGA『わたしをつたえるにほんご』1、2

翻訳版：英語、中国語、フランス語、ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ネパール語、アラビア語、ダリ語



アンさん



フィリピン出身
日本人の夫と子2人
介護職

自分の経験や考えや気持ちを伝える。
人とつながり、世界を広げていく。
生活上の問題を相談する。

ナムさん



ベトナム出身
食べ物の工場で働く
ルームメイトは同僚

ジュリアさん



ブラジル出身
自宅で料理教室
花のボランティア

本田さん



北海道出身
会社員
趣味はラーメン

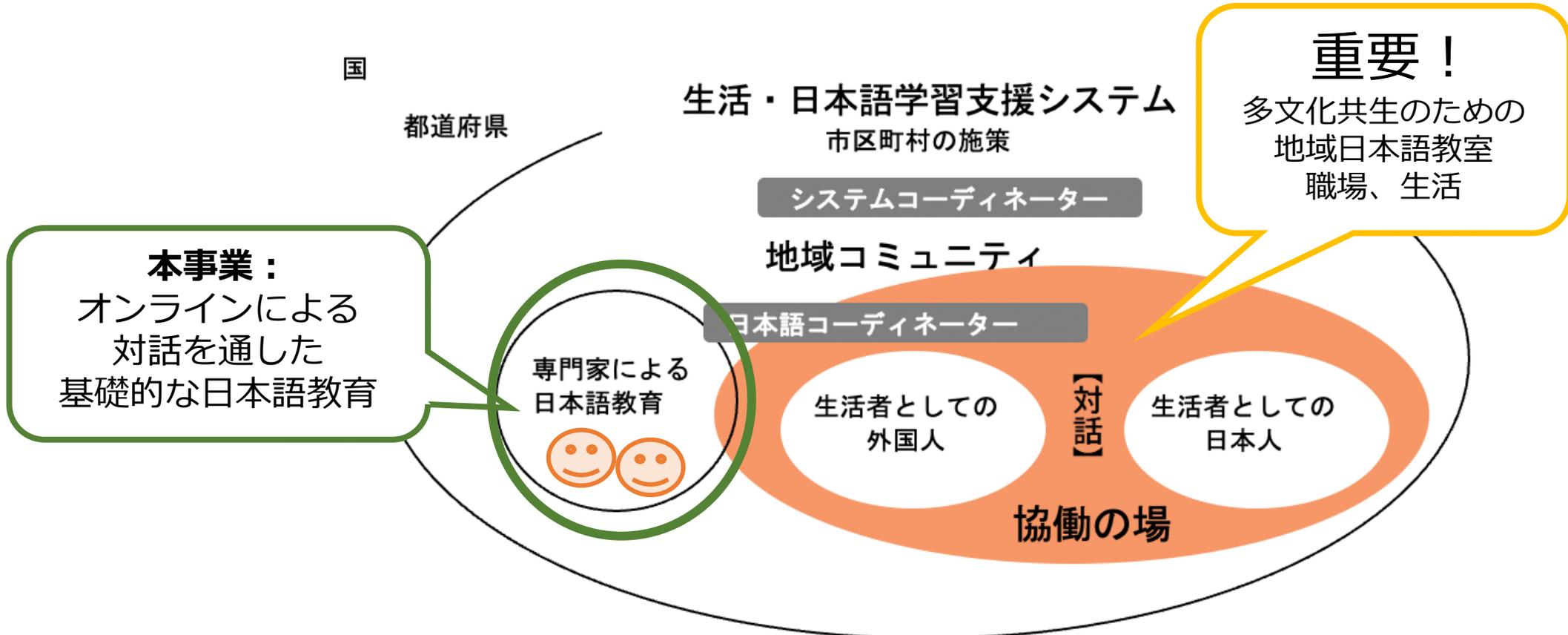
リンさん



中国出身
中華料理屋経営
趣味は山登り

ユニット	テーマ	「標準的なカリキュラム案」の該当項目
U. 1	自己紹介	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 2	家族・仲間	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 3	好きなこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 4	わたしの1日	目的地に移動する>公共交通機関を利用する
U. 5	先週の土曜日	自身を豊かにする>余暇を楽しむ
U. 6	店・施設	自身を豊かにする>余暇を楽しむ 消費活動を行う>物品購入・サービスを利用 する
U. 7	地域の活動	社会の一員となる>地域社会に参加する
U. 8	仕事	働く>仕事をする
U. 9	体・健康	健康・安全に暮らす>健康を保つ
U. 10	きまり・お願い	社会の一員となる>地域・社会のルール・マナーを守る
U. 11	防災	健康・安全に暮らす>安全を守る
U. 12	わたしの考え	自身を豊かにする>余暇を楽しむ
U. 13	毎日の生活	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 14	好きなこと・得意なこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 15	これからしたいこと	社会の一員となる>地域社会に参加する
U. 16	嬉しかったこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 17	地域の情報	社会の一員となる>地域社会に参加する
U. 18	困ったこと	健康・安全に暮らす>安全を守る
U. 19	ヨーグルト、食べる？	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U. 20	わたしの幸せ	人とかかわる>他者との関係を円滑にする

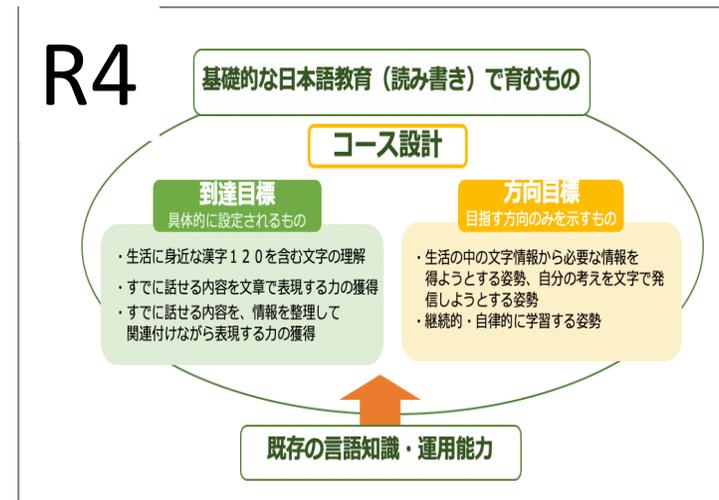
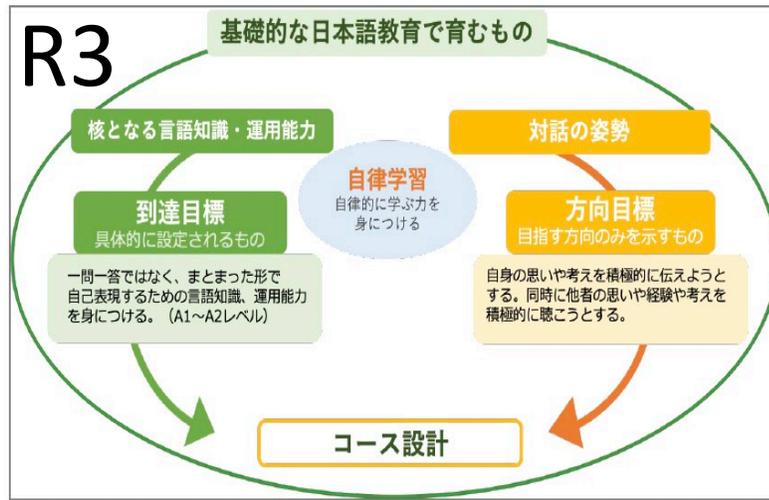
地域の日本語学習機会における本取組の位置づけ



図は、平成19年度文化庁 日本語教育研究委嘱 外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）— 報告書—日本語教育学会編 P.14の図をもとに作成

	R3（はじめてコース）	R4（読み書きコース）
特徴	基礎的な 口頭能力 の獲得	基礎的な 読み書きの力 の獲得
対象	ほとんど、または 全く日本語がわからない層	会話能力はあるが、読み書きができない層
方向目標	対話の姿勢、自律学習の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の文字情報から必要な情報を得ようとする姿勢、自分の考えを文字で発信しようとする姿勢 ・継続的・自律的に学習する姿勢
到達目標	一問一答ではなく まとまった形で自己表現するための言語知識、運用能力 の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に身近な漢字120を含む文字の理解 ・すでに話せる内容を文章で表現する力の獲得 ・すでに話せる内容を、情報を整理して関連付けながら表現する力の獲得
方法	マスターテキストアプローチ（ 自己表現活動中心 の日本語教育）	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしをつたえるにほんご』を利用した読み書き学習 ・生活漢字

日本語教育実践研究の成果



実践研究会の実施

講師の助言を受け、
評価方法を検討

当事者の行動

行動観察
パフォーマンステスト（口頭）
ペーパーテスト（筆記）
成果物（話す準備としての作文）

当事者の意識

インタビュー
アンケート

波及効果

周囲の人へのインタビュー
周囲の人の行動

何がどのように変容したかに注目

日本語教育実践研究の成果

- 担当教師が考える地域日本語教育の目的

「多文化共生のまちづくり」につながるものであるという共通認識

- 何をしたのか？

R3 到達目標にはcan-doを入れつつも、**対話力の醸成**を方向目標とした。

R4 「**対話**」を通して**読み書きの学習**を進めた。

- 何ができたのか？

「はじめてコース」も「読み書きコース」も、**学習活動をとおして対話を活性化させる**ことで、**can-doを超えて**学習者ひとりひとりが**自分や社会について伝え合い、ともに考える場**とすることができた。

- 何がわかったのか？

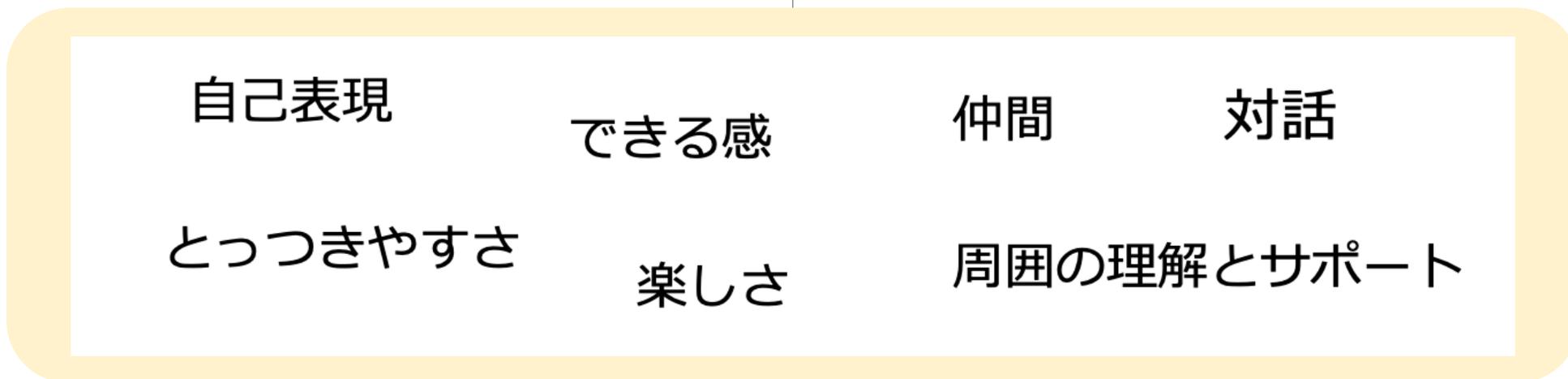
実用的な言語行為can-do達成のみを目標とするだけでは、対話力を育むという方向目標には向かわない。

「**できる**」ことだけでなく、「**そのことについて考える**」**時間**を組み込むことが奏功した。

R3

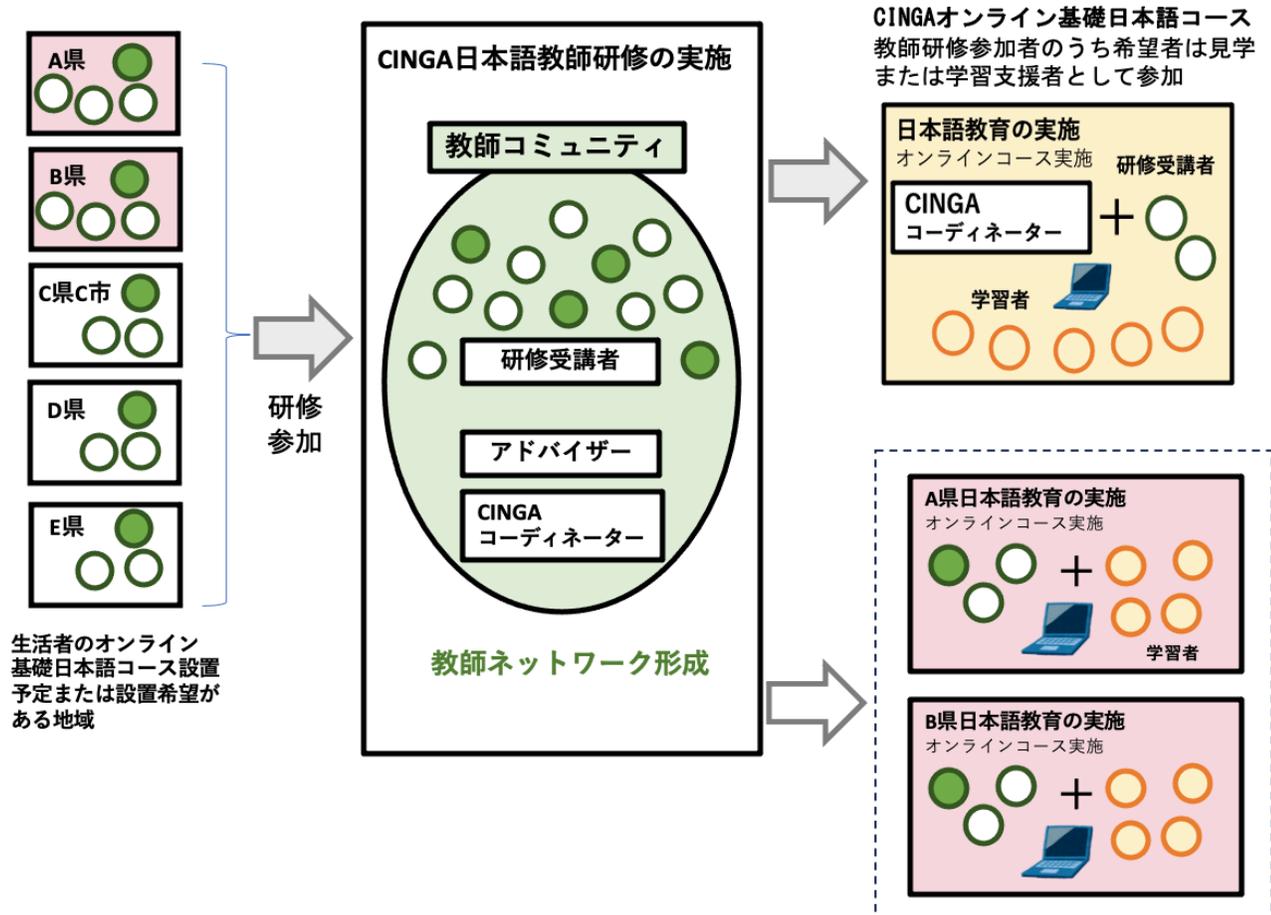


R4



教師研修の成果

R5の取り組み全体像 教師研修+日本語教育の実施



日本語教育プログラム策定を担う
コーディネーターとプログラムの実践に関わる**日本語教師**と一緒に研修に参加

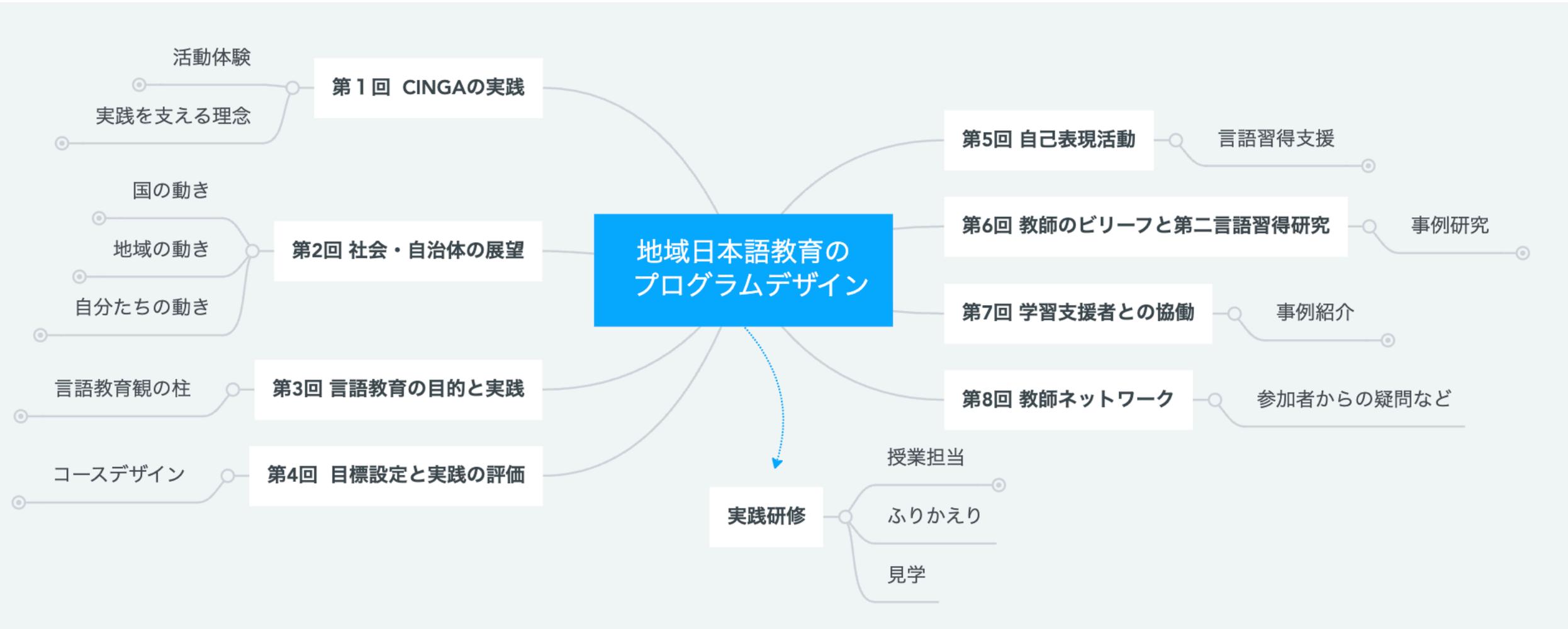


地域チームで**視点や方向性を共有**



基礎的な日本語教育のコースを実施する地域では、研修での学びやチーム性が活かされている。

教師研修プログラム



教師研修参加者の声

- チームで参加し、同じ経験を経ることで共通の土台ができた。
- 自分自身の実践をふりかえり、客観的に捉え、より広い視野を得ることができた。
- 地域の日本語教育における基礎日本語について考えるきっかけになった。
- 第二言語習得の知見を生かした教室活動案などを学ぶことができた。
- 生活分野で活動する日本語教師を県内に増やすために、今回の研修内容と手法を参考にしたい。
- これからの実践で何をすべきかわかった。他県の参加者と話すことができ、多くの気づきを得た。座学だけではこのような理解の仕方はできなかった。
- 今までのやり方に固執せず柔軟に考えることの大切さに気づけた。
- 今回のような他地域の実践の共有や意見交換等、来年度以降も複数人のチームで積極的に関わる機会を県内外で見つけたい。また、自主的に学び合う小さいグループを創るなど行動を起こしたい。

特定ニーズに対応した日本語教育の在り方の提案

- 「対話」と「自己表現」を中心に据えたコースデザインのオンライン日本語教育を実践すること。
- 対面／オンラインともに活用し、学習の場を選べるように環境整備すること。
- まちづくりに資する日本語教育を実現するため、コーディネーター、教師が方向性を共有できる関係を構築すること。

ありがとうございました



R3, R4の事業・日本語コース詳細は、以下のリンクから報告会資料をご覧ください。

一部録画も公開しています。

<https://www.cinga.or.jp/language/japanese/japanese-blog/4734/>

- 事業名 R3 地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業
- R4 「生活者」のための公的な基礎日本語教育の実践研究事業
- R5 自己表現と対話で学びを促進するオンライン基礎日本語教育普及事業